

交牧連の活動日誌

～みんな違う みんな仲間～

第13回 五感で感じる酪農体験を

新たな産業として 価値ある体験を提供したい

地域交流牧場全国連絡会関東ブロック(栃木県那須塩原市 しのめファーム) **前田 匡彦**

私は栃木県那須塩原市の自然豊かな土地で酪農を営んでいます。1982年生まれで茨城県水戸市の鯉淵学園農業栄養専門学校を卒業後、自由学園那須農場に就職して15年間勤めました。そして2020年5月に空き牛舎を借り、「しのめファーム」として念願だった新規参入での就農を果たしました(詳細は2月号「らくのう一家の生活」を参照)。

現在は、つなぎ牛舎に乳牛約70頭を飼養し夫婦二人で管理しています。主に私が搾乳と繁殖、圃場の管理を担い、妻は給餌と子牛の哺乳を担当しています。未経験だった妻は就農を機に酪農に携わってくれています。飼料畑は借地で4.5haあり、去年はイタリアンライグラスやトウモロコシなどの自給飼料を生産しました。

「肩の力を抜いて私たちが楽しもう」

牧場としてはこの4月に地域交流牧場全国連絡会(交牧連)に加入したばかりですが、私が交牧連とかかわり始めたのは前職の自由学園に勤めていた頃でした。職場は当時から交牧連に加入しており、在学生や外部の方々の酪農体験を受け入れていました。私自身、酪農をしたいという思いだけで業界に入ったので、食育や命の教育という観点から酪農にかかわることができたのは人生の転機であり、とても影響を受けました。

酪農教育ファーム認証牧場には、老若男女問わずさまざまな人が酪農を体験しに来ます。そこで何かを伝えようとしても、相手によって伝わり方が異なるので、当初は試行錯誤しながらより良い方法を模索する日々が続きました。特に子どもたちは、何気

なく難しい疑問を投げかけてきます。例えば「牛はなんで白黒模様なの?」「なんで牛乳は白いの?」など、科学者のような質問を受けることがあります。その間に専門的な話をした結果、子どもたちに何も伝わらず、困惑させてしまったことがあります。

そんな時に先輩酪農家から「子どもたちは君と一緒に考えたいんだと思う



2020年に新規参入による就農を果たした前田さん一家。左から前田さん、長男・時志(ときさね)君、妻・晶子さん



後継者育成を図る交牧連のクラブ・ユース事業のイベントに参加した酪農家たちと集合写真



よ。時には、ロマンをアクセントにしてもいいんだよ。肩の力を抜いて私たちが楽しみましょう」とアドバイスをもらいました。その言葉にさまざまな気付きがあり、それ以来酪農教育ファーム活動の魅力に引かれていきました。

五感で学ぶ教育ファームの役割は重要

その後は出前授業や研修会などの活動に参加しながら、自由学園でも酪農教育ファームの活動を行えないかと考え、地域の学生の受け入れや農場キャンパイベントと同時に酪農体験を行っていました。そこでは、牛や牧草、農業機械を実際に見て触れたり、牛舎のおいをかぎ、私たちの話を聞いてもらった後、最後には自家製アイスクリームを食べてもらいます。

私は体験を提供するに当たり、視覚・嗅覚・聴覚・触覚・味覚の五感全てを使って酪農を感じてもらうことが重要と考えており、その全てがかなう酪農教育ファーム認証牧場が果たす役割はとて大きいと思っています。「食卓で召し上がっていただく食材全てに命があり、その命を自分の命に代えさせていただきます」一。牛を通じて「いただきます」の意味を体験した人たちと共に考えることが、酪農という仕事に誇りを持たせてくれます。

体験受け入れに向け安全・衛生・防疫対策進める

前職から交牧連に関わり、酪農教育ファーム活動を通じてさまざまな人たちと交流できました。私が独立して、しのめファームを始めてからも、目指すのは地元の人たちに牧場を開放し、体験を提供することです。そのために、今は安全・衛生・防疫対策などのインフラ整備を進めています。

牧場で飼養する子牛たち。ホルスタインの他にジャージーやブラウンスイスがあり、「将来酪農体験を受け入れる時には参加者に多様な種類の牛に触れてほしい」と願う



晶子さんと共に、「牛乳の日にSNSで消費者へ感謝を伝えた

そして交牧連でのつながりを生かし、たくさんの方からアドバイスや協力を得られることが、とても心強かったです。コロナ禍で行動が制限されていた中でも、ウェブ研修会などで情報交換し合いながら、遠方の人とも元気な姿を確認し合えたのもうれしかったです。

持続可能な酪農を築いていく中、消費者理解の醸成や酪農ファンづくり、新規参入促進は必須であり、将来的には酪農教育ファームを生乳販売や6次産業化に次ぐ新たな産業にしていきたいと考えています。価値のある体験を提供し、正当な対価を得る。酪農教育ファームは、そのポテンシャルを十分に備えているからこそ、これからはより多くの仲間が必要です。

自分の牧場で体験受け入れをしなくても、交牧連イベントや研修会の参加は可能です。コロナ禍や世界情勢が落ち着いた先には、元通りに戻るのではなく、必ず変化が訪れると私は思います。新たな酪農の形を共につくっていかれたらと思います。

牧場概要

牧場名 しのめファーム
代表者名 前田 匡彦
所在地 栃木県那須塩原市木綿畑1964
総飼養頭数 約70頭(うち搾乳牛約50頭)
年間生産乳量 約430t
飼養形態 つなぎ飼
飼料畑面積 約4.5ha(イタリアンライグラス、トウモロコシ)
牧場スタッフ 2人(本人、妻)
交牧連加入年 2023年
主な活動 新規就農者への情報発信、不定期の体験受け入れ

地域交流牧場全国連絡会(交牧連)に関するお問い合わせ先

(一社)中央酪農会議内交牧連中央事務局
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295
メール: koubokuren@churaku.jp
ホームページ: <https://www.dairy-farm.jp/>
フェイスブック: <https://www.facebook.com/koubokuren>



【交牧連 HP】